



私の  
**なんとか  
しなきゃ!**

Vol. 51

## PROFILE

1976年ニューヨーク生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。TBS系『世界ふしぎ発見!』でミステリーハンターとして活躍した他、オーガニック・コンシェルジュなどの資格を生かし、環境系イベントの司会やレポーターもこなす。著者に『祈る子どもたち』（太田出版）。フェアトレードコンシェルジュ講座主宰。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー。

父の仕事の関係で、高校までの多くの時間を海外で過ごしました。小学校はバンコク。まだ森があちこちに残っていて、毎日走ったり泳いだりして全身真っ黒でした。中学はアメリカに引っ越して現地の学校に入りましたが、最初は英語がほとんど話せず苦労しましたね。少しずつコミュニケーションが取れるようになってからは、いろいろなことを学べるこの国の楽しさを感じ始めました。大学は日本に帰国することを選んだのですが、そんな自分の経験を生かして、海外とつながりのある仕事ができればいいなと漠然と思っていました。

大学3年の時に縁あってオーディションを受けた映画番組のレポーターの仕事がきっかけとなり、フリーアナウンサーの事務所に所属することになりました。その後にはやらせていただくことになったのが、『世界ふしぎ発見!』のミステリーハンター。テレビで見ていた時は「楽しそう!」と思っていたのですが、実際のロケはとても過酷でした。

その中で、人生のターニングポイントとなった国があります。アフリカのタンザニアです。キリマンジャロの頂上で溶け始めている

一人一人に世界を変える力がある

フリーアナウンサー 末吉里花



氷河を取材するという回でした。でも、それまで登山といえば高尾山程度。とても不安でしたが、登頂前日に麓の学校の子どもたちと植林をしていた時に、「僕たちは頂上に行けないから、氷河の様子を確かめてきて!」と言われ、その言葉を励みに踏ん張りました。頂上からの景色はとても美しかったのですが、一方で、温暖化の現実を目の当たりにして心が痛みました。

そこから環境問題について勉強し始め、フェアトレードと出会いました。雑誌を見ていてかわいいなと思ったワンピースが偶然、フェアトレード商品だったんです。そのブランドの創設者に会いに行き、「ファッションで世界を変える」というコンセプトに共感して、しばらくは彼らの活動をお手伝いしていました。何年かたって、やはりフェアトレードの現場に足を運びたいという気持ちが強くなり、ネパールとバングラデシュへ。工場には託児所や学校が併設されていて、生産者の女性たちが子育てをしながら働ける環境がありました。自然にも人にも優しいフェアトレードの魅力を実感し、この素敵なお取り組みをもっと広めたいと思いました。

そこで立ち上げたのが、「フェアトレードコンシェルジュ講座」です。日々の生活で気軽にフェアトレードを実践してもらえるよう、学んだり、体感したりするチャンスをつくりたかった。この講座を受けた後、日常の買い物の意識を変えた人、大学でフェアトレードのサークルに入った人、障害者をサポートする団体を立ち上げた人、フェアトレード事業を起業した人など、それぞれに大きな変化が見られました。私たちは微力であって無力ではないのです。

地球は広くて、まだ知らない世界がたくさんあります。一度飛び出したら、私は今の人生につながる出会いがあった。最初の一步を踏み出せば、そこから道が開けてくるはず。あなたの勇気が、世界を変えるきっかけになるかもしれません。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

なんとかしなきゃ で